

事業報告 3

平成15年度尾形尚子奨学基金国際シンポジウムおよびレクチャーの報告

小泉 祥一

東北大学大学院教育学研究科

本稿は、平成15年度、東北大学教育学部尾形尚子奨学基金によって行われた国際シンポジウムおよびレクチャーについての報告である。今回、尾形基金によって招聘したのは、アンソニー・ケネディ (Anthony Kennedy) 判事である。

アンソニー・ケネディ判事は、アイルランド共和国におけるフォー・コート(高等裁判所、Four Courts)のアイルランド中央区巡回裁判所(Circuit Court)の首席常設判事 (Senior Permanent Judge, Senior Counsel) である。氏は、1592年に創立され、アイルランドでもっとも歴史のあるダブリン大学トリニティ・カレッジを卒業し、ロー・スクールで有名なキングス・インを修了後、法曹界に入り、首席法廷弁護士(シニア・カウンスル)を経て、アイルランド大統領に任命された、数少ないフォー・コートの首席常設判事である。氏はこのように法律の実践者であるだけでなく、たいへんすぐれた法律の研究者でもある。特に、家族法、教育法、労働法、行政法等の分野において深く関わっている。それは、アイルランドの裁判官必携文献の編集、執筆を担当し、裁判官の研究・研修会で講演や講義を行い、さらに、アイルランド裁判研究所の推薦によってローマで開催されたヨーロッパ裁判官連合会議に出席するなどの活動にも表れている。また、中国との交友団体のメンバーとして北京にも訪問し、仙台高等裁判所の判事やマレーシアの法律家との交流を持つなどアジアへの造詣も深い。

まず、国際シンポジウムは、平成15年4月24日(木)午後2時から3時間、下記(次頁)の内容で文科系総合研究棟の大会議室にて行われた。

本学部の学生を中心に、大学院生、他学部の学生、大学院生、学外から学校、警察、出版の各関係者、ボランティア団体関係者など、このテーマに関心のある方127名の参加があった。

シンポジウムでは、ケネディ判事をはじめ、齊藤豊治教授(法学研究科)、菊池武剋教授(教育学研究科)、宮腰英一教授(教育学研究科)、小泉祥一教授(教育学研究科)の5名のパネリストから提案があり、それを受けてコメンテーターの中島信博教授(教育学研究科)から提言があり、その後、活発な質疑応答が行われた。司会は小泉祥一が行った。シンポジウム終了後の談話会でも、熱い思いの伝わる情報交換が展開された。

次に、ケネディ判事によるレクチャーは、4月22日(火)4校時と5校時の2回行

われた。テーマは、「アイルランドにおける青少年非行と犯罪の特徴と課題」で、具体的な内容は、「子どもに対する性的虐待」と「薬物裁判」である。参加した本学部学生と大学院生はそれぞれ46名、31名であった。講義終了後、学生からいろいろ質問もあり、有意義な時間を持つことができた。

以下、ケネディ判事の、国際シンポジウムにおける講演とレクチャーにおける講義内容の概要を掲載する。(報告2～4を参照)

国際シンポジウム

テーマ：日本とヨーロッパにおける青少年非行・犯罪と青少年教育の傾向と対策

パネリスト：

アンソニー・ケネディ氏（アイルランド共和国 フォー・コート首席判事）

「アイルランドにおける少年犯罪に対する裁判と教育」

齊藤豊治氏（法学研究科教授 刑事政策・少年法）

「非行・犯罪に対する少年司法の対応」

菊池武剋氏（教育学研究科教授・同研究科長 発達心理学）

「青少年非行をどう見るか」

宮腰英一氏（教育学研究科教授 比較教育学）

「イギリスにおける青少年問題の現状と対策」

小泉祥一氏（教育学研究科教授 教育経営学）

「日本における青少年非行の現状と青少年教育の課題

－教育経営学の視点から－」

コメンテーター：中島信博氏（教育学研究科教授 スポーツ社会学）

コーディネーター：小泉祥一氏（教育学研究科教授）